



校友会だより

開校150周年記念号

第46号



2023年(令和5年)

中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

SAPIXサピックスには 合格のメソッドがあります。



『なぜ?』から生まれる『討論式授業』

～子どもたちとのコミュニケーションを重視した授業スタイル～

オリジナル教材

～学ぶ喜びに直結する様々な工夫～



授業は週1～3日

～小学校生活や習い事との両立も大丈夫～

復習中心の学習法

～思考に広がりを持たせるらせん状カリキュラム～

※入室を希望されるお子さま、各種特訓・講習などの受講を希望されるお子さまには、「入室テスト」を受けていただいております。お申し込み等の詳細はホームページをご確認ください。

サピックス

検索

www.sapix.com

中学
受験

SAPIXサピックス

小学部

☎0120-3759-50

(日曜・祝日をのぞく 14:00～17:00)
SAPIX YOZEMI GROUP



明治座

中央区日本橋浜町2-31-1
03(3660)3939

お切符のお求めは…

明治座チケットセンター
03-3666-6666
(予約時間 AM 10:00～PM 5:00)

または…

明治座ホームページ上で、
チケットのご予約を承っております

インターネット予約「席とりくん」

詳細は、<http://www.meijiza.co.jp> をご覧ください。

感動をクリエイトする劇空間。



江戸総鎮守
神田明神

<http://www.kandamyoujin.or.jp/>

周年事業へのご協力に感謝します (母校百六十周年、未来永劫に向けて)

昭和五十三年卒業
校友会及び運営委員会会長 川口 修一郎

いつもお世話になりありがとうございます。私は名目上で会長になっていますが、校友会の主役は、校友である皆さまお一人お一人であり、皆さまが懐かしい恩師や仲間と親交を深めるためのお手伝いをする事務局的な立場であると思っています。従ってリーダーシップの發揮の仕方も会社のようにではなく、お願いベースのヨコのリーダーシップを心掛けて参る所存です。

今年の五月の校友会は年度幹事さんの中から選出された校友会実行委員長さんのもと、久々に母校体育館で開催しました。このところのコロナ禍の中、節目として参加できなかつた、新会員、二十歳のつどい、ホームカミングの会員の皆様を歓迎しました。オンラインを併用するなど、運営にあたり、多くの皆様のご協力を賜り開催する事が出来ました事にあらためて感謝を申し上げます。

昨年、開校百五十周年という大変大きな節目の年を迎えた母校久松小学校は、一年間を通して様々な周年行事が行われました。記念式典の他にパレードなど、久松小学校のホームページの「周年行事」というところに詳しく記録され

ます。校友会の会員多くの皆様から、周年基金をお預かりしました。使途として、周年記念事業協賛会に協力し、また歴代の周年式典の写真をデジタル化、修復、カラー化に取り掛かっています。出来上がったお披露目は今年度の校友会、次号の校友会だよりにて報告する予定です。さらに五年後の百五十五周年にまわしたいと思っております。会員の皆様ご協力ありがとうございます。今後は校友会として母校百六十周年、未来永劫に向けて、校友会事業継承に努力し、学校と協力をしていく所存です。会員の皆様の御教導を賜れば幸いです。

最後に、全校児童、園児、関係者に配られる周年記念誌に校友会として掲載する文章を転載します。

秋篠宮皇嗣殿下の言葉 「歴史と伝統を大切に」

令和四年十二月三日土曜日久松小学校百五十周年幼稚園八十周年の記念式典に秋篠宮皇嗣殿下、皇嗣妃殿下が行啓されました。九十周年から昭和天皇、皇后両陛下の行幸啓。百周年では当時皇太子殿下、皇太子妃殿下であった現在の上皇陛下、上皇后陛下の行啓を賜りとその後も十年ごとに皇室をお迎えして記念式典、周年行事を行ってきました。

今まで皇室をお迎えしての記念式典、周年行

事を行ってきたのは、日本広しといえども三校しかなく、その後、統廃合もあり、現在でも行っているのは久松小学校だけと聞いています。

記念式典の始まる前に、来賓として体育館に入ると、六年生が先に座っていました。記念式典の始めから終わりまで、私語する事なく立派に座っている姿を見て大変感動をしました。代表児童が記念式典の最後に何も見ずにとうとうと話す姿にも感銘しました。記念式典終了後、皇嗣殿下、皇嗣妃殿下は校舎内クラスの前を通って校庭まで全校児童、園児と交流してくださいました。子ども達の記憶に残る記念式典になったのではないのでしょうか。

今までの記念式典、周年行事に校友会は協賛会に協力、松の木を贈呈とそのメンテナンス、立原道造の記念碑建立等、五年十年の周年毎に行なってきました。今回、校友会は協賛会に協力と、今までの周年式典記録の中で古くなつてしまった写真の修復とデジタル化をします。

九十周年から百五十周年と、記念式典、周年行事が、続けてこれられたのは、伝統を守ってきたくださった各年代の先生、児童、園児、保護者の方々、伝統を築いてくださった地域の先輩、行政の方々のおかげであります。その事に深い感謝を申し上げます。そして今後校友会として、百六十周年、九十周年、未来永劫に向けて、これまで引き継いできた襷を更に繋げるように最大限の努力と協力をしていく所存です。

百五十周年八十周年おめでとうございます。

新たなスタートの年 力を合わせて

第二十二代
久松小学校校長 植村 洋司

若葉・青葉の色も一段と濃くなり、今年も久松校友会総会の季節となりました。校友会の皆様には、日頃より久松の子どものために様々な形でお力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では毎年約五十名ずつ児童数が増え、全校九百五十名程となり、ますます活力ある久松となっております。

本校の教育目標は「強く 正しく 豊かに」です。このことを、次のように捉えています。

- 心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心を持ち、自らよりよい成長を目指す。

- ものごとを正しくみつめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。

- 豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心を持ち、共生社会の担い手となる。

この教育目標実現のための学校経営の基本理念として、①楽しさのある学校、②厳しさのあ

る学校、③信頼感のある学校の三つを挙げます。

さて、昨年度は、久松小学校開校一五〇周年・久松幼稚園開園八〇周年の記念すべき大きな節目の年でした。様々な記念行事は、どれも心に残るよき思い出となりました。十一月十六日（水）の久松フェスティバルでは、学校・家庭・地域が浜町グラウンドに久しぶりに集い、一体感のあるものとなりました。空高く舞い上がる風船の光景は今でも目に焼き付いています。また、十二月三日（土）の記念式典では、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御台臨を仰ぎ、また、東京都教育委員会教育長浜佳葉子様、中央区長山本泰人様、中央区議会議長木村克一様、中央区教育委員会教育長平林治樹様はじめ多数の御来賓の御臨席を賜り、盛大に式典を挙行し、また四月からの周年記念行事をまとめた動画試聴会を行うことができました。両殿下のお見送りでは、児童・園児全員でつくった花道をお歩きいただきましたながら、両殿下には時間を超えて子どもたち一人一人に声をかけていただき、大変感激いたしました。子どもたちを慈しむ優しいお心を肌で感じました。御来賓の方々からは、六年生の凜とした姿、久松の子どもたちの礼儀正しい姿に対して、多くのお褒めの言葉をいただき、大

変うれしく、また誇りに思います。皇嗣殿下からいただいたお言葉「新しい時代の担い手」は、記念碑に刻みました。校友会の皆様には、様々な形で支えていただき、心より感謝申し上げます。これからも、久松の歴史の新たな一ページを刻み続けてまいります。

学校では、児童数の増加等を踏まえ、教育委員会とも連携しながら、令和五年度より新たな教育活動を工夫・改善してまいります。令和五年度の大きな課題の一点目は、児童数増加に対応するさらなる工夫改善です。登校については、引き続き個人登校といたします。安全第一に進めてまいります。「分散」や「ICT活用」をキーワードに工夫して考えてまいります。課題の二点目は、新たな教育活動の円滑な実施を進めることです。入学式の二部制、全学年毎年度のクラス替え、一足制など、新たな試みとなりますが、一つ一つ丁寧に準備し「ソフトランディング」させていくよう力を尽くします。校友会の皆様にも御理解・御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校友会の皆様を支えていただきながら、久松の子どもたちのために教職員一同力を合わせて、力を尽くしてまいります。

年度恩師あいさつ

あたりまえの暮らし

昭和五十八年卒
三組担任

三神 美智

久松小学校開校百五十周年おめでとう
ございます。

私は昭和四十七年四月から十二年間久松
小学校にお世話になりました。その間、お
おせいのお子さん、お父様、お母様、P T
A、地域の方々に出会いました。そして、温
かく支えて頂きながら毎日を楽しく過ごす
ことができました。本当にありがとうございます
でした。

私ごとで恐縮ですが、私は昭和十二年、江
東区砂町で生まれました。砂町小学校に入
学しましたが、当時日本は太平洋戦争のさ
なかでした。

くる日もくる日も空襲警報のサイレンが

鳴りました。とてもこわかったです。その
度に庭に掘って作った粗末な防空壕に逃げ
込みました。人がしゃがんで、やっと七、八
人は入れたでしょうか。

防災頭巾をかぶった大人の人は、防火
用水からバケツで水を汲んで、火事を消し
ていました。

三月九日の夜の上空襲で下町一帯はほと
んど焼け野原になりました。

空がまっかでした。

私の家もまる焼けで、私の大事なランド
セルも家族の写真も全部焼けてしまいまし
た。ですから私は小さい時の写真は一枚も
ありません。

昭和二十年八月十五日に戦争は終わしま
した。戦争が終わったことを知り、子供心
にホッとした記憶があります。

でも、家が焼けてしまったのでうちは、父
の実家のある田舎に引っ越しました。

戦争が終わっても、戦後長い間、かなり
長いこと大変な時代が続きました。戦争で

家を焼かれ、親をなくした子供たちが、東
京には、おおせいいました。田畑は荒れ、食
糧難時代がきました。

今、ウクライナでは戦争をしています。暗
く、冷たい地下室で、おびえている子供た
ちを想像してしまいます。

かわいそうです。

一日も早く戦争が終わって、子供たちに
明るい笑顔がもどるよう祈っています。そ
して、ウクライナの人人々に、子供たちに、
日々「あたりまえの暮らし」ができるよう
になつてほしいと願っています。

強く正しく豊かに思いやりを持つことを
大切にす久松小学校の校友の皆さんと、
百五十周年と同じ年にウクライナでつらい
思いをしている人々を思いやることで、そ
の願いが少しでも早く、叶いますように。
最後になりましたが、久松小学校と校友
会、そして卒業生とご家族の皆さんの
健康とご多幸を心からお祈りしております。

記念碑「一日一日を大切に」の 前に立つおもい

昭和五十八年卒
四組担任 角田 元良

昭和五十八年三月久松小学校を卒業した皆さんの一番の思い出は何ですか。百十周年に、当時皇太子殿下であられた浩宮徳仁親王殿下をお迎えした式典を思い出す人が最も多いのではないかと思います。その時の六年生の担任の先生は、一組菅野、二組中嶋、三組三神、四組が私でした。この一年間は私の教員生活で一番思い出に残る年でした。とにかく年間を通して周年を祝うという計画の下に行事が目白押しでした。当時の記録を振り返ってみます。先ず皮切りは、四月八日の柏学園への全校遠足でした。バス十数台を連ねて登校班ごとに分乗

し学園で焼き芋をしたり、満開の桜の下で縦割り班で遊んだりお弁当を食べたり。それはそれは華やかで楽しい企画でした。桜の花びらが弁当に舞い落ち、美味しいお弁当に彩を添え、賑やかに会話の弾む時間でした。六月二十八日には、今は校舎の拡張で無くなったプールの落成式があり、五輪金メダリストの田口選手の世界一速い平泳ぎと、対称的にゆったりとした古式泳法の三田さんの泳ぎ初めがありました。更に七月七日にはビルテナー少年合唱団を迎えての歌の交歓会が七夕集会の直後に開かれました。冷房のない体育館で来日したばかりの少年たちの中には暑さと長旅の疲労で倒れる人もいましたが、チロルの山並みを思わせる澄んだ歌声が体育館一杯に響き渡り、久松の子ども達との歌の交流と相まって、

素晴らしい集会になりました。最大の行事は、十一月六日土曜日に行われた百十周年記念式典であることは勿論です。音楽の斎藤仁先生の作詞作曲になる祝典曲「かわたれ」。自分たちが久松小の六年在籍時に代表としてこの式典に参加出来たこと。式典で親王殿下のお言葉を耳にし、校庭のページェントで、殿下の気品に満ちたお姿に直接接し、すっかり魅了されてしまったこと。締めくくりは、卒業式当日の朝、殿下のお言葉を刻した「一日一日を大切に」の除幕式でした。これら全ての行事を引っ張っていったのは、当時の六年生、貴方でした。そのあなたは今、どんな思いを持っているのでしょうか。校友会での記念碑の前で、当時の想いを掘り起こし、未来を語り合ってみたいものです。

開校百五十周年

平成十五年卒

一組担任

石甲斐 陽子

青空が晴れわたっていた昨年十二月三日、久松小学校百五十周年記念式典が開催されました。百三十周年の時六年生だった皆さんはすでに中堅といわれる年代になっていることとされます。「あの時のタイムカプセルは、どうなっているかな……。その時みんなで会いたいね。」と話して卒業しました。

しかし、ここ数年のコロナ禍で状況が大きくかわり、当日式典に参加した私たちもオンライン参加ということでした。

秋篠宮両殿下をおむかえしての式典が始まりました。背すじを伸ばしてしっかり前

をむいていた六年生をみて、当時を思い出しました。代表の六年生の力づよい挨拶にも感動しました。両殿下がお帰りの際には全員で校庭に整列してお見送り致しました。両殿下は、いつまでも児童の皆さんとお話

されていきました。この時の経験はいつまでも心に残ったことと思われれます。当時の細井校長先生、粟野校長先生、宮崎校長先生にもお会いでき、元気なお姿を拝見することができ、うれしい限りでした。また当時の保護者の方ともお会いでき話の輪が広がりました。

教室の配置もずい分とかわりました。

校舎の中はあいかわらずきれいで、エプロンをつけて清掃していた当時を思い出しました。来校者の方々にきちんと挨拶することができいつもおほめの言葉をいただいたものです。

教育目標「強く、正しく、豊かに」を常に目指して身につけ、歴史と伝統のある久松小学校ですごされていた大勢の卒業生の皆さんには、すばらしい思い出が残っていることと思います。

私は十年間、この学校にいられたことに感謝し、百五十周年を迎えた久松小学校がいつまでも地域の方々と共に末長く続くことを願っています。

百五十周年おめでとうございます。

平成十五年卒

三組担任

松浦 正和

いつも、校友会だよりを送っていただきありがとうございます。私が久松にお世話になっていましたのは、平成十三年度と十四年度の二年間でした。十四年度には百三十周年を迎え、常陸宮様ご夫妻をお迎えして、記念式典を行いました。式典後には、子どもたちがフラッグを使ったダンスをご披露し、宮様ご夫妻から盛んに拍手をいただき、子どもたちにお声をかけていただきました。今から丁度二十年前の話になります。

私はその後、大田区で教頭・副校長、港区で校長と管理職になりましたので、久松

の二年間が担任として子どもたちとかかわる最後の経験となりました。子どもたちは、礼儀正しく知的好奇心が旺盛で、いろいろなことに積極的に取り組んでいました。たった二年間でしたが、私にとっては多くのことを学ばせていただきました。久松の伝統、PTAや校友会の活動、地域の学校に対する暖かい目など、枚挙にいとまがないほどです。

久松で学んだことは、その後の管理職として、子どもが楽しく進んで学ぶ授業づくりや保護者や地域の皆さんのかかわりなどに、活かしてきたつもりです。おかげさまで、大田区で四年間、港区で九年間勤め、平成二十八年三月に定年退職しました。

その後は、お話をいただき、帝京科学大
学で教職特命教授として、五年間、教員志

望の学生の面倒を見てきました。現在は、以前勤めていたことや大学があったこともあり、足立区で若手の教員の面倒を見ています。

これまで、いろいろな学校とかかわらせていただきましたが、久松のように、校友会という同窓会組織がしっかりしている学校はありませんでした。これからの社会はさらにICTが発達し、ともすると人とかわらずに過ごせてしまいます。予想のつかないこれからの世の中を生きていくためには、協力して学んだり、課題解決したりするために他の人とかかわりが大切です。久松の校友会に学んで、いろいろな人と良いかかわりができるようにしたいものです。百五十周年本当におめでとうございます。久松小学校、校友会の益々の発展をお祈りいたします。

平成二十四年度卒業生の 皆さんの思い出

平成二十五年卒

二組担任

荒川 弘樹

平成二十三年度の五年生を佐藤光昭先生、梅原与志子先生、越智啓太先生と、平成二十四年度の六年生を水上美穂子先生と担任させていただきました。皆さんと過ごした二年間の思い出を振り返ってみたいと思います。

五年生では、昭和記念公園への遠足、たてやま夕日海岸ホテルで過ごした館山臨海学園などたくさんの思い出がありました。一番印象に残っているのは、学芸会「スサノオ」です。

平成二十四年が、日本最古の歴史書「古

事記」が編纂され千三百年ということ、日本の神話をもとに、頭が八つある怪物ヤマタノオロチに立ち向かうスサノオノミコトの冒険物語を劇にすることにしました。

劇は、役者チーム、ダンスチーム、楽団チームに分かれて、ミュージカル風に仕上げました。特に、クライマックスで登場するヤマタノオロチは、大量のビニールシートに送風機で風を入れ膨らませて、舞台全体を覆い隠す大迫力の演出ができました。

六年生では、鎌倉遠足、運動会、本栖移動教室、展覧会とたくさんの行事がありました。平成二十四年度は、小学校開校百四十周年、幼稚園開園七十周年に当たり、一年間を通して開校・開園をお祝いしました。

記念式典は、まさに「久松ここにあり」というすばらしい式典となりましたが、

周年に関連した行事もこれまでに経験したことがない特別な行事ばかりでした。

例えば、開校記念パレードでは、学校周辺の道路の交通規制を行い、パレードをしました。また、校庭での記念演奏、風船とばし、周年オリジナルキャラクターの投票など、周年でしかできない経験をたくさんさせていただきました。どの行事も学校、PTA、卒業生、地域の方々の協力なしではできないものばかりでした。

令和四年度に、小学校は開校百五十周年、幼稚園は開園八十周年の節目を迎えました。今後も久松小学校・久松幼稚園が益々発展するとともに、皆さんが健康に過ごすことができることを祈念しております。また、元気にお会いできることを楽しみにしています。

百四十周年を思い出して

平成二十五年卒

一組担任

水上 美穂子

平成二十四年度に一年間、担任をさせていただきました。一年間はあっという間でしたが、十年に一回の百四十周年という年に六年生の担任だったので、よく覚えていきます。

一組の担任は水上、二組の担任は荒川弘樹先生でした。この頃はほとんどが学年二クラスで、現在の久松小学校の半分くらいの人数でした。現在の校庭の遊具があるところにプールがあり、幼稚園の窓のところにとても大きな桜の木があって、今とはまたひと味違った校庭でした。

さて、この年は、一年間を通して数々の周年のイベントがありました。まずキャラクターの募集があつて、久ちゃんと松君はこの時の一組の女子の作品が採用されまし

た。びっくりするのは、その時のキャラクターが十年たった今年も装いを新たに使用していることです。

強く心に残っているのが、全員で行ったページェントでしょうか。その時、音楽専科だった、高石美佳先生の御指導のもと、「ずいずいずつころばし組曲」をやりました。歌、踊り、合奏、ブラスンバンド、和太鼓で構成されたその曲は完成するのに、多くの時間と練習を行い、学校全員の一体感や達成感は、それは大きなものでした。

記念式典には、本当に多くのお客様がいらしてくださいました。その中には、この日本橋で長い間久松小学校を見守ってくださる町の代表の方々が多く、参加した児童の背中を見て、たくさんの方々がほめてくださり、とてもうれしかったのを覚えていきます。

他にも多くの行事があり、七段ピラミッドが一秒だけだったこと、本栖移動教室の

ナイトウォークで、怖い荒川先生の話を聞いたあと、キャラクター言いながら男女二人で暗い夜道を歩いたのがとても楽しかったことなど、学校でやっていることを何でも楽しさにそして力に変えてくれる子どもたちでした。

最後に私は、六年前に退職しましたが、その後も久松に残って家庭科を教えさせていただいています。十三年いますが、今も十年前と変わらないよいことが子どもたちの中にたくさん根付いています。

それは、百五十年にわたる久松小学校の卒業生の皆さんが大切なことを脈々と受け継いでいることと、日本橋の町のみなさんが温かく見守って支えてくださっているからだと思います。

これからも、伝統とすばらしい校風を受け継いでいってくださることを心から願っています。

昭和五十八年卒

緑は深し年々に わが久松に力あり

校友会実行委員長 三組 西村 典子

久松小学校の開校百五十周年にあたり心よりお祝い申し上げます。この節目の年に校友会の年度代表幹事とは恐れ多いと思っていたのですが、今回の各年度幹事は六年生の時に百十・百二十・百三十・百四十周年の歴代の記念行事を経験している強力なメンバーが集まって心強いのと、運営委員の皆さんのひとかたならぬご指導やお力添えもあり、謹んでお受けした次第です。皆さまに感謝いたします。

私たち昭和五十八年卒が最上級生として参加した百十周年の記念式典には、浩宮様（現天皇陛下）がいらっしやいました。目の前を歩かれる姿を拝見し、校庭の碑に刻まれている「一日一日を大切に」というスピーチを生で聞いたので、今でもふと当時の景

色やお言葉を思い出して凜とした気持ちになります。

そのほかにも、音楽の斎藤先生が式典用にオリジナル楽曲を制作し、高学年は「かわたれ」、低学年は「ようこそ殿下」を猛練習したこと、全校記念詩集「隅田川にさんまがやってきた」のために慣れない詩を書いたこと、先生方も詩の添削が大変そうだったこと、初めての七宝焼で熱でつやつやになるのが魔法のように思えたこと、みんなの数センチ四方の七宝焼プレートを組み合わせてちゃんと大きな絵になって驚いたこと、校庭で校章の形に並んで撮った航空写真（ドロロンがない時代なので大掛かりな一大イベントでした）に自分の家も写っていて嬉しかったことなど、百十周年ならではの思い出がたくさんあり、とても貴重な経験でした。

そのような周年の特別さに目が行きがちですが、大人になるほどに久松小学校で得たパワーも感じていきます。

まず、時間を守ったり忘れ物に気を付けたりすることが自然に身に付いています。また、当時は正直嫌々やっていた整列や行進ですが、後々、社会は集団規律があるこ

とでスムーズになっっている面もあることを理解するのに役立ちました。あの経験がなかったら我を通すだけの痛い大人になっていたかもしれません。さらに「相手の立場に立って考える」「思いやりを持つ」「悪いことはダメ」ということもよく言われていて染み込んでいます（いまだに手抜きやズルをしようとする）と心の中で天使が止められます（笑）。久松小学校のホームページで久々に教育目標「強く、正しく、豊かに」を目にして、改めて勉強以外に多くの大事なことを学んで今に至っているのだと気持ちよくなりました。

最近ではコロナ渦で在宅勤務が増えたこともあり近所で久松の制服を見かけることも多いのですが、みんなハツラツとかわいくしゃかりしていて、久松イズムが受け継がれているようで頼もしい限りです。

卒業後四十年で年度幹事の担当は最後です。五十二歳はこの超高齢化社会ではまだまだひよっこなので、引き続き久松小学校で得たパワーに感謝しながら力強く暮らし、同じパワーを身に付けた子供たちが日本に、世界に、宇宙に羽ばたいていくのを楽しみに見守っていきたいと思います。

平成五年卒

卒業から三十年

一組 西野 敬之

私たち平成五年卒業生が久松小学校を卒業して三十年が経ちました。卒業後しばらくは同窓会にも参加していた記憶がありますが、その後は時の経過とともにクラスメイトとの連絡も途切れ、顔を合わせることもなくなっていました。

しかし、今から八年ほど前のある平日の朝にいつも通り通勤のため家を出て駅に向かおうとしたところ、久松小学校時代の同級生が、二十年以上ぶりにもかかわらず、偶然すれ違った私に気づいて声をかけてくれました。それをきっかけに、有志での同窓会に参加させてもらい、その後は年賀状のやりとりやSNSを通じて、久松小学校の同級生との付き合いが少し復活した状況となっていました。

そして昨年の秋、校友会活動のご案内をいただき、母校との繋がりができれば、ま

た、同級生と再び会うきっかけができれば、とふと思い、今年度の校友会年度幹事に参加させて頂くことになりました。

平成五年卒業生は現在、仕事・家事・育児に追われる人も多く、また、昨年末には新型コロナウイルスの第八波が猛威を振るう状況になっていましたが、校友会準備をきっかけに、是非同級生同士で何とか顔を合わせて再びつながることができればと思います、SNSを通じて同級生に声をかけ、集まることのできた同級生数人で今年の年始にオンラインでの集いを開催しました。

週末の夜の遅い時間の開始でしたが、自宅のデスクでビールを片手に、PC画面を通じて、久しぶりに旧友の顔を見て、お互いの近況を共有し、そして過去の思い出話に笑いを咲かせることができました。あっという間に真夜中を周って深夜になっていました。

旧友と久々に過ごすひと時は、幼いころからの今に至るまでの自分を振り返る貴重な機会になると感じます。また、歴史と伝統のある母校とその同級生との繋がりは自分自身の大事な一部であると改めて感じま

す。

これまでになく情報技術が発達し、SNSやウェブを通じて遠隔地でコミュニケーションできる時代になったということは、そのような観点からも本当に有難いことだと思えます。ふとしたことで復活する母校や旧友との繋がりを今後も大事にして少しずつ更に発展させていき、併せて多少なりとも久松小学校同窓の皆様のお役にも立てればと思います。



先輩からのおたより

「燃ゆる魂」久松はスタートライン！

昭和二十一年卒業 福田 錦二

昨年度、久松小学校百五十周年、久松幼稚園八十周年式典が十二月三日に行われました。久松フェスティバルが浜町グラウンドにて開催、児童の活発な演技、澄み渡る大空に舞い上る風船、児童の笑顔、歓声が目に焼き付きました。式典には秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご台臨を仰ぎ、教育委員会、区長と多数のご臨席を賜り、又名誉会員、久松昴子様にも遠路松山からご出席賜りました。久し振りにお逢い出来て感激に目頭が熱くなりました。

両殿下のお見送りでは、卒業児童、幼稚園が両側に並び、お見送り、両殿下が子供達にお声を掛け時間を掛け微笑みながら進まれました。一列隔て、お見送り、両殿下

心優しさに涙を零しました。

校長植村先生始め各先生方の力添えが成功の賜物と感じました。式典、祝賀会の祝い、「おめでとうございます」。

昨年、十月に五人で都会のオアシス、椿山荘へ行きました。庭園、小高い山道をのぼり下りで、隅々まで廻ってきました。頂上の三重の塔、石塔、山道の脇に置かれてる神々を拝みながら歩いて来ました。一時間に二回、雲海の見せ場を楽しんで来ました。ホテル棟にある、「みゆき」で会席料理を頂き話に時間を忘れてしまう程、楽しめました。思い出を胸に散会となりました。

今年は私共は九十歳と成りました。「卒寿です」。敬老会の日の後十月位に開催したいと思えます。戦争時の事、児童疎開の事、焼けた校舎での卒業式、個人疎開で間に合わなかった思い出を語り合います。いつでも忘れない幼少時代、親元を離れ泣きながらのお寺での生活など……。多くの参加お待ちします。



慶祝！「拡大校友会」五十周年

昭和二十七年卒業 渡辺 俊夫

◎昭和四十八年、開校百周年に合わせ、学生中心の集まりであった校友会を、社会人も含む「拡大校友会」として再編した。爾来五十年、令和五年は校友会自体も慶祝の年に当たる。リニューアルにかかわった者は、私と奥田英雄氏（昭和十四年卒業）の二人だけとなった。

久松校友会は明治二十三年七月に第一回を開催。女子のみ対象では明治三十二年が最初。

卒業生の多くは家業を継ぎ、地元に残る。親、子、孫。歴代卒業の家庭が稀ではない。愛校心も育つ。木造校舎時代は火災、台風、地震など幾度も災害に見舞われた。校友会、学校後援会が主軸となり、復興に大きく貢献していた。私は開校期の第一世代には縁がなかったが、後続の方々には面識を得た。学制頒布当初の「地域の共有財産であ

る学校」を支援する篤志家が多かった。商売上の付き合いであればお目にかかることさえ叶わぬ大先輩が、同じ地平で若輩と対等に接して下さった。

昭和二十三年、奥田氏らは小規模ながら「焼け跡校友会」を立ち上げた。二十六年九月発行の『久松校報』には「校友会発足の記述が。この年、総会開催という確かな足跡を標した。翌二十七年の総会は私にとって初めてのもの。プログラムは大切に残してある。

以降、講堂を会場に、貧しい会ではあったが若い参加者で賑わった。アトラクションは映画や演芸。地元の寄席「人形町末広」の石原幸吉氏には何度もお世話になった。正規の出演依頼なら手の届かない金額。しかし、「いいですよ」の一言で、空いている落語家や漫才師を手配して下さった。後日、お礼に参上。差し出す薄謝の封筒を改めもせず「有難う。皆さんよくやるね」と劳いの言葉まで頂いた。

卒業生であり、本校教諭でもあった神山

磯江先生が学校側の校友会担当。幹事はクラス単位で選出され役に就いた。私は卒業式当日、別れを惜しむ最後の教室で男女二名ずつ選ばれた中の一人となった。自ずと責任感が。永年係わってこられたのは、こうした事情もある。

昭和三十六年、私は奥田氏から幹事長（いまの会長）職を継いだ。校友会担当は石渡公子先生に。天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いだ九十周年には、記念事業後援会（現在の記念事業協賛会と同格）実行委員として参画。以降、今回まですべての周年に関わった。

当時、総会参加者は中高生が中心。幹事長役に人材不足はない。私の後任は武井旭氏。以後、数年周期で継がれていった。

四十六年、震災校舎改築計画が。新校舎完成まで有馬小、東華小、十思小への三校分散で授業が行われた。講堂が使えない。校友会もやむなく休会となる。

余談を。かつて都心部からの人口流出によって統廃合を余儀なくされた学校がある。

久松はどうなるか、真顔で心配したものだ。人口回復により、いまは児童・園児の受け入れに苦慮している。久松は学校、幼稚園合わせて千名を超え、満杯である。

四十八年十月、新校舎落成と百周年記念式典を同期させた。記念事業協賛会は、校友会再編を公式記念事業の一つに加えて下さった。社会人を含む広範な組織への転換。全卒業生・恩師を網羅した名簿作成も事業に加え、費用は協賛会が負担して下さった。

活動はかなりのエネルギーを要した。式典関係はPTA経験者の西山良雄（昭和十年卒業）、横井道郎（昭和十六卒業）両氏に任せ、奥田氏と私は「改組と名簿作成」に専念。以後、校友会は幹事長制をやめ会長制に。

ハードルは高かったが、各世代から万遍なく協力者が現れた。その熱量に感銘を覚える。ワープロ、パソコン、プリンターなどの機器はまだない。学校のガリ版を借用。情報収集や会合案内は、戸別訪問か手紙で。

先生方、とりわけ松崎和夫、中山芳男両

先生には大きなお力添えを頂いた。職員室との良好な関係が構築されていたのだ。

百周年記念式典当日の夕刻、拡大校友会初の総会が校庭で盛大に開かれた。感慨無量だった。四百ページの「校友会名簿」も完成した。題簽は大石隆子先生。

◎松山市の久松昂子氏。平成十五年の「久松家に感謝する会」にはご夫妻でご臨席下さった。記憶されている方も多いはず。

一昨年暮、昂子氏から個人的にお話しが舞い込んだ。亡きご主人・定成氏の誕生日録を、手拭いに仕立て親しい方へ贈りたい。手伝ってほしいと。家族愛に満ちた企画である。未経験ではあるが、光栄なこととお引き受けした。

門外不出の原資料が届いた。「大正十五年定成様御誕生記事」は久松家の担当者が罫紙帳へ克明に墨書。着帯、入院、出産、命名、御七夜、御宮参り、御祝い品、金封、答礼品などの仔細である。時間をかけ慎重に解読した。

催された祝宴には名家が勢揃い。司馬遼

太郎の『坂の上の雲』に登場した秋山好古氏もいる。デザートには当時珍しかったバナナも出された。伯爵・久松定謨公（久松学校創立に大きな貢献をされた）が輸入に関わったという。

出生届は父・定武氏（愛媛県知事を長く務めた）ではなく、祖父・定謨公が書いて一木喜徳郎宮内大臣に提出。御世継ぎ誕生に沸く場面の一方、華族制度の在り方まで推察できる。

手拭に添える解説文はご当主・定智氏にお願いした。研究者・教育者としてご多忙な毎日であるが、ご快諾頂けた。ここに定謨公から定智氏まで、四代に亘るミニ「ファミリーヒストリー」が完成した。

◎久松小と愛媛県松山市の番町小とは、創立時、久松定謨公の大きな援助が共通する。昨年九月と十二月、オンライン形式による交流授業が体育館で行われた。この件、久松家ゆかりの「萬翠荘」指定管理者・ウイン社から、私に下話が寄せられていた。萬翠荘が百周年を迎えたことを記念し、両校

交流を図りたいとの相談であった。上京した担当者から詳細を聞き、その話を学校に伝え実現したものである。両校児童が、リアルタイムで言葉を交わす。昭和二十一年入学の私は、今様浦島太郎である。

十数年前、番町小を訪問した際、当時の校長と「交流」が話題に上った。その後「紙媒体」による情報交換はあったものの、停滞気味だった。郷土史、気候風土、産業、交通、さらには文学まで、両校の内包する素材は多彩である。今後、変化に富んだ授業が期待される。

◎鳥羽屋里長（本名・川原寿夫・昭和二十三年卒業）氏が昨春秋、文化功労者に選ばれた。歌舞伎長唄の第一人者である。心からお祝い申し上げたい。

本誌上、最初の関連記事は五十六年の『校友会だより』。これはご先代・芳村五郎治氏の「人間国宝」を祝う記事。同家は「三代校友」として勢揃いで総会にご参加下さったこともある。

本校の立地と邦楽との相関は、若い世代

には理解が及ばない。近隣地域の特色は、古き時代の情緒そのものだ。旧町名の芳町や浪花町、浜町、人形町、蛸殻町などは、「花柳界」と呼ばれる領域でもあった。料亭、待合、置屋。終戦直後でもこの世界の復興は早かった。そこかしこに芸者衆の姿や人力車、三味線の音。「箏三絃教授」の看板もちらほら。

いっぽう、横山町、馬喰町、富沢町、堀留町など、問屋街の旦那衆は番頭や丁稚らと額に汗して働く。小さな店屋も健気に頑張っている。これが、かつての学区域だった。

◎昨年十二月三日、秋篠宮様ご夫妻がご臨席下さった開校百五十周年・開園八十周年記念式典。続いての祝賀会。コロナ禍という制約のもと、控えめに祝った。広い体育館に百五十名ほどの人数制限。何はともあれ、開催できたことが嬉しい。松山から久松昂子氏もご臨席。過去二回、同窓会が久松家をお招きしているが、今回は学校が正式にご招待したいとのことで、松友会はそ

の仲介役を務めた。史実に照らしてもこのあり方が望ましい。

記念事業協賛会会長は、明治座社長・三田芳裕氏がお引き受け下さった。前回に続いてのご大役である。私は松友会代表の立場で副会長を仰せつかった。校友会、松友会ともに無事責任を果たすことが出来た。皆様に心からお礼申し上げます。

第一回協賛会（昨年五月）の席上、私は「学校は周年の主題に『感謝』を入れている。感謝の向かう先は、開校に従事した多くの先人へのものであってほしい」と要望。今回で七度目となる式典参加だが、その思いは回を重ねるごとに強くなっている。

明治五年学制頒布。維新直後で公的財政にゆとりはない。敷地は小笠原左衛門佐長守邸跡が用意されたものの、校舎建設費等は地域の富裕層はもとより借地人、借家人にも浄財を求め、地元は学校経営の成否まで問われていた。いま区立学校は区民全体の税金に依って賄われる。この違いを知っておきたい。

（校友会元会長）

我が母校を改めて誇りに想う

昭和五十六年卒業 関戸(西川) 菜美

久松小学校百五十周年、幼稚園八十周年の式典に参列する機会をいただき、本当にありがとうございました。

当日は、寒いながらも式典を祝福するがごとく良く晴れ、秋篠宮皇嗣殿下、皇嗣妃殿下の行啓を拝させていただきました。私が幼稚園の時の百周年記念式典には、現在の上皇陛下、上皇后陛下の行啓された事も今も懐かしく思い出します。

体育館での式典を教室からオンラインで拝見参列させていただきましたが、式典に参列している六年生の立ち居振る舞いを感じをし、私達のころも、式典や常日頃の立

ち居振る舞い、規律、あいさつに厳しかったことを思い出しました。また、その久松の校風が現在も続いていることを嬉しく思いました。

そして、周年事業の映像を校長先生からご紹介いただき、コロナ禍の中、先生方のご苦労や地域の方々のご尽力を改めて御礼申し上げます。

式典の中での秋篠宮皇嗣殿下の温かいお言葉や児童へのお褒めのお言葉。お帰りの時、児童整列の間を進まれる際、一人一人とにこやかにお言葉をかけてくださり、長い時間をかけ、また、御料車にお乗りになる際にもお手を振ってくださいました事に感激いたしました。

式典後の祝賀会には久松小学校の産みの親のご子孫の久松様もいらっしゃり、改めて久松の歴史を感じ、当時、久松町に住んでいた私は、誇らしく思わずにおれません。

この度の式典は、久松小学校が、次の周年に向けて更に飛躍、発展していくことを確信出来、更に、これからの卒業生が誇りを持って世界に羽ばたいていってくださることを願うばかりです。



開校150周年記念事業について

- ・校友会特製ノート：150周年基金のお礼の品として作成しました。
- ・母校所蔵写真のデジタル化：母校所蔵の写真をデジタル化し、劣化部分の修復、カラー化を行い、貴重な資料が長く保存できるようにします。まずは90周年から140周年の記録写真（下写真）から取り掛かります。その後、その他の記録写真を順次デジタル化を行います。デジタル化した写真はレプリカを作成し、学校に画像データと共に校友会からお渡しします。現存の写真は劣化を避ける為に校内暗所にて保存する予定です。



開校150周年記念碑について

校友会だより46号の表紙を飾っている開校150周年記念碑は2023年3月9日に除幕式を行いました。記念碑に刻まれている「新しい時代の担い手」は、開校150周年記念式典で秋篠宮皇嗣殿下が述べられたお言葉から来ているとのこと。場所は、未来像の右側、旧朝礼台の場所にあります。



150周年基金終了のお知らせ

2020年4月から開始しました150周年基金については、2023年4月末日をもって終了とさせていただきます。

皆様方から頂戴した150周年基金は、3年間で1,467,554円となりました。運営委員会からお礼を申し上げます。今後は150周年基金としてお預かりしましたら、その分は周年行事基金積立金に繰り入れます。

校友会の150周年記念事業として、上に記載しますように、校友会特製ノートの作成および母校所蔵写真のデジタル化、修復、カラー化を作業中です。また、150周年記念式典への協賛金を拠出いたしました。さらに、155周年記念事業に使用することに致します。今後は、160周年に向けて、2030年頃に周年基金を始めますのでその節はよろしくお願いいたします。

ありがとう
ございました!





久松小学校開校150周年・ 幼稚園80周年 記念行事



5/2

オープニング集会

卒業生であるお笑い芸人「土佐兄弟」さんをお迎えして、久松ビンゴクイズをしたりオープニングセレモニーのくす玉を割りました。

6/4

体育学習発表会

「絆～150～」をモットーに

10/15

なかよし スポーツデー

「ひさまつようちえん
80さいおめでとう」



令和3年度卒業生製作
記念モニュメント

10/19

開校記念集会

「888人※に聞きました」※在校生数

10/25

ようこそ先輩

俳優「田中圭」さん
をお迎えして

11/16

久松フェスティバル

浜町グラウンドにて
各学年の表現運動と風船飛ばし



12/3

記念式典

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、来校の際はお迎えの園児整列の中、にこやかにお進みになり、園児達へのお声かけをなさっていました。コロナ禍の為、体育館での代表は6年生と年長さん。その他の児童は教室でのリモートビューとなりました。

緊張と静寂の中、式典が執り行われました。秋篠宮皇嗣殿下は児童らに対し、未来への期待のお言葉を述べられました。

式後、児童達の中にお座りになり、周年記念行事のビデオ鑑賞をなさいました。児童達が花道を作ってのお見送りの中、校庭で代表児童から大きな花束をお受けになり一人一人と言葉を交わされ、なごりおしむ児童の大歓声の中、御予定の時間を大幅に越えてのお帰りとなりました。



ひさちゃん

まつくん



■年度幹事



今年の年度幹事（昭和58年、平成5年、平成15年、平成25年卒）の皆様、本当にご苦勞様です。ありがとうございました。

■校友会運営委員一覧

- ◎会長 川口修一郎（昭53）
- ◎副会長 杉山寿英（昭56）
- ◎書記 中谷久子（昭37）
- ◎会計 橋詰阜佐枝（昭34）
- ◎編集長 三部 健（昭51）
- ◎庶務 大野由貴子（昭46） 三部 健（昭51）兼務
- ◎委員 大塚ふさ子（昭56） 齊藤淳子（昭56） 関戸菜美（昭56）
前澤佐代子（平14） 長堀 弘（平14）
- ◎監査役 説田好伸（昭37） 廣田隆之（昭57）
- ◎相談役 中村正信（昭37）
- ◎総会サポーター 宮島裕美（昭46） 松下久子（昭46）
江藤照美（昭54）

～運営委員大募集です！～

校友会の活動を次の世代に引き継ぐべく、運営委員を常時募集しています。皆様のお力を是非お借りできませんか？160周年に向けて卒業生で力を合わせましょう。

校友会は毎年5月の総会に向け、校友会だよりの編集、校友会総会、イベントの企画についての話し合いをしています。

最近では運営委員をお引き受け頂ける方が、激減しています。そのため、運営委員の高齢化が進んでおり、運営委員会の活動が少々困難になってきているのが現状です。実のところ、今の運営委員の活動人数では足りません。このままでは校友会だよりを発行できず、休会をしなければならぬ危機的な状況にあります。

短期間や一作業でのお手伝いでも構いません。これなら出来ます！これだけなら出来ます！と、手を上げて頂ける事を願っています。運営委員会は、通常毎月第2木曜日 19:00～ 浜町コミュニティールーム（浜町1-2-3）で行っています。お気軽にお越しください。

運営委員会の開催予定は変更になる場合があります。最新の開催予定はホームページをご覧になるか、メールにてお問い合わせください。

中央区立久松小学校校友会会則

- 第1条 本会の名称を中央区立久松小学校校友会とする。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦、情報交換、母校のより良い教育環境構築へ支援を図ることを目的とし、特定の政党、宗教等の活動の場としてはならない。
- 第3条 本会会員の構成は下記の通りとする。
- ・正会員 久松小学校の卒業生および在籍した者
 - ・特別会員 久松小学校の職員ならびに旧職員
 - ・名誉会員 終身名誉会員である久松昂子氏とする。
- 第4条 本会の運営は、久松小学校校友会運営委員があたり、下記の運営委員をおく。
- ・会長 1名
 - ・副会長 若干名
 - ・書記 正副各1名
 - ・会計 正副各1名
 - ・編集長 1名
 - ・庶務 若干名
 - ・委員 数名
 - ・監査役 2名
- いずれも正会員中より選出する。
尚、運営委員とは別に相談役を置くことができる。
相談役は過去の運営委員（旧名称：常任幹事）から運営委員会の議決をもって選出する。相談役は、運営委員会から相談された時、適切な助言をするものとする。
- 第5条 会長の任期は1期2年とし、最長で4期8年とする。
副会長、運営委員、監査役の任期は1期2年とし、再任を妨げない。
相談役を除く役員任期の最終期限は卒業60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。
- 第6条 本会の総会は毎年1回、5月第4日曜日に開催する。
通年の活動のうち、総会開催に向けての一連の作業は、卒業後10年、20年、30年、40年を迎えた学年に当番年度幹事を依頼し、運営委員との連携のもとに行われる。
- 第7条 必要に応じて、臨時総会を開催する。その時期は運営委員会により決定される。
- 第8条 本会の運営は入会金、会費、寄付金、基金等により維持する。
尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。
- 第9条 本会の収支決算は監査役の監査を経た後、運営委員会、総会の順に承認を得る。
- 第10条 本会の事務局は、〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2
中央区立久松小学校 03-3661-6106内に置く。
- 第11条 本会則の変更は、運営委員会にて協議、議決し、総会において出席会員の過半数の同意を得て変更できるものとする。
総会を欠席する会員は、委任状による賛否の意思表示を可能にする。
但し、委任状無く欠席した場合は棄権とみなすものとする。
- 第12条 本会の運営上、想定外の事態が起きた場合、必要に応じ、母校、及び関係各団体等と十分な連携を図り、より良い結論を得るよう努力する。
- 第13条 運営委員及び相談役の行動には公明正大さが求められる。本会の活動理念に违背する行為があった時、運営委員会で慎重審議のうえ、解任・除名を行う。
- 第14条 本会則に無い事案については、運営委員会で誠意をもって協議し決定するものとする。

内規 第4条、及び第13条に関して

- ・校友会会長は、組織の独自性を守り、校友会の代表として純粋に機能する為、母校PTAまたは久松睦会の会長を兼任する事は出来ない。

- ・運営委員及び相談役はその肩書きを利用して、個人的な営利を図ることができない。
- ・相談役は、その知識・経験を会の運営に生かすよう運営委員会との連携を心がける。

本則／平成26年5月施行。

※平成21年5月 久松昂子氏を終身名誉会員に推戴。

中央区久松小学校校友会 運営委員会会則

(名称及び事務局)

第1条 本会は「中央区立久松小学校校友会運営委員会」と称し(以下、本会とする)、事務局を東京都中央区日本橋久松町7-2、中央区立久松小学校(以下、母校とする)内に置く。

(目的)

第2条 本会は、母校校友会の会員相互の親睦等を目的とする母校校友会の会則の趣旨に則り、その円滑な運営を活動の目的とする。

(活動内容)

第3条 本会は、前項の目的を達成するために次の事項を行う。

- (1) 母校校友会の総会の開催に関すること
- (2) 母校の記念行事ならびに事業に協力すること
- (3) 機関誌「校友会だより」の発行・発送に関すること
- (4) その他、目的達成に必要な事業に関すること

(運営委員会)

第4条 本会には次の運営委員(以下、会員とする)を置く。

会長(1名)、副会長(若干名)、書記(若干名)、
会計(若干名)、編集(若干名)、庶務(若干名)、
委員(数名)、監査(若干名)、総会サポーター(若干名)
尚、運営委員と別に相談役を置くことができる。

(会員の定義)

第5条 会員は母校校友会を応援して下さる方とする。

尚、相談役については過去の本会(旧名称:常任幹事会)の運営委員より選出する。

(会員の職務)

第6条 (1) 会長は本会を代表し会務を総括し、総会における議長を担当し、最終決裁を行う。

(2) 副会長は会長を補佐し、会長不在の場合はその職務を代行する。また、会長が最終決裁をできない状態にある時は、副会長のうちの一人が会長に代わって最終決裁を行う。

(3) 書記は会長の指示に従い本会の記録事務を総括し、総会時に事業報告を行う。

(4) 会計は会長の指示に従い本会の会計事務を総括し、総会時に会計報告を行う。

(5) 編集長は会長の指示に従い、機関誌「校友会だより」の編集を行い、毎年4月上旬に発行する同誌を遅滞することなく、校友会会員に配布する。

(6) 庶務は会長の指示に従い本会の円滑な運営のための事務作業を統括する。

(7) 監査は本会の実施事業および会計事務を監査し、総会時に監査報告し、総会での承認を得る。

(8) 相談役は会員から相談があった場合に、その案件に関して必要な助言を行う。

(9) 総会サポーターは、総会開催の前日及び当日の準備、設営、運営、撤収などの実施作業全般を担うものとする。

(任期)

第7条 本会会員の任期は2年とし、再任を妨げない。
但し、会長については初任期間を含めて通算4期8年間を限度とし、いずれもその任期の最終期限は卒業後60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。

(会議)

第8条 (1) 総会

総会は本会の最高議決機関であり、原則として毎年5月第2金曜日に開催する。また必要に応じ、運営委員会の臨時総会を開催することができる。その時期は本会によって決定される。

(2) 正副会長会議

同会は会長が招集し、月次運営会議(次項参照)を円滑に進めるため、議題について話し合う。尚、必要に応じ、議題に関する会員等の参加を認める。但し、意思の合意、議決の誘導の場としてはならない。

(3) 月次運営委員会

同会は総会に次ぐ議決機関であり、原則的に毎月第二木曜日に会長が招集する。総会に提出する諸議案や同会で協議した各種議題の実施内容について決議する。尚、議決にあたっては、相談役を除く会員のうち出席者の過半数により可決する。

(4) 当番年度幹事・運営委員合同会議

当番年度とは、卒業後10年、20年、30年、40年の年度を指し、その学年に幹事を依頼し、会長が招集し、総会当日まで会員と連携し、「校友会だより」の作成、総会運営に関する打ち合わせを行う。

(5) 事務局

事務局は母校内に置かれ、常駐するものはいないが適宜に母校側と連絡を取り、本会に関する諸行事が遅滞なく進行できるよう主に庶務が担当し全体的な連絡・調整を行う。

(会計)

第9条 本会に要する経費は運営委員会の決定により、入会金、会費、寄付金、基金等により維持するものとする。尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。

(母校との連携)

第10条 本会が必要に応じ、母校および関係各団体等と十分な連携を図り、各種事業の実施を行う。

(休会及び解任)

第11条 会員の心身等の理由により職務の執行に耐えない時、または会員にふさわしくない行為があった時は本会の議決により休会もしくは解任することができる。

(除名)

第12条 会員が次の各号のいずれかに該当する時は、同会の議決により除名することができる。

(1) 母校の名誉を傷つけ、または校友としての品位を害する行動、言動があった時。

(2) 校友会の秩序を乱した時。

(3) 故意、または重大な過失により、母校、校友会、もしくは本会に損害を与えた時。

(会則の変更)

第13条 会則の変更については、本会則第8条3項により、本会月次運営委員会に於いて協議・議決される。

第14条 本会則に無い事案については、会員の誠意をもって協議し決定するものとする。

(附則)

この会則は令和4年3月10日より施行する。

本会則に記載あることに相違ありません。

東京都中央区日本橋久松町7-2

中央区立久松小学校 校友会 会長 川口修一郎

令和3年度事業報告

2021（令和3）年7月1日～2022（令和4）年6月30日

書記 中谷久子

月・日	
(令和3年)	
7・10	母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。
7・22	母校2階家庭科室にて運営委員会。初顔合わせの会の宛名書き。
8・29	母校2階家庭科室にて運営委員会。初顔合わせの会のご案内状封入作業と発送作業
9・18	母校2階家庭科室にて運営委員会。初顔合わせの会の配布資料および出席者確認。
10・7	母校2階家庭科室にて運営委員会。初顔合わせの会の準備。
10・16	母校2階家庭科室にて年度幹事との初顔合わせの会
11・5	母校にて周年準備委員会に出席。
11・11	浜町コミュニティールームにて印刷会社と打合せ。母校2階家庭科室にて運営委員会。
12・9	浜町コミュニティールームにて運営委員会。
12・11	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議。校友会だより編集作業内容説明。
(令和4年)	
1・13	浜町コミュニティールームにて運営委員会。校友会だより協賛広告趣意書発送。
1・15	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議。
1・20	母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席
2・10	浜町コミュニティールームにて運営委員会。校友会だより校正作業。
2・19	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議
2・23	浜町コミュニティールームにて編集作業。校友会だより校正作業、広告集計状況確認。
3・10	浜町コミュニティールームにて運営委員会。発行部数確認。校友会総会実施形態案作成
3・12	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議。校友会だより校正作業。校友会総会実施形態決定。
3・20	浜町コミュニティールームにて編集会議。
3・24	浜町コミュニティールームにて校友会だより校了確認会議。
3・27	浜町コミュニティールームにて編集会議
3・29	浜町コミュニティールームにて校友会だより校了確認会議。
3・30	母校2階家庭科室にて周年行事準備委員会に出席。
4・14	浜町コミュニティールームにて運営委員会。校友会総会内容確認。
4・18	母校2階家庭科室にて周年行事準備委員会に出席。
4・23	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議。校友会総会内容確認。校友会だより配布。
4・29	母校2階家庭科室、にて、校友会だよりの封入作業、学校への配布作業
5・12	浜町コミュニティールームにて運営委員会。校友会総会前日、当日のスケジュール確認。
5・15	母校2階家庭科室およびオンライン（ZOOM）にて年度幹事との合同会議。校友会総会リハーサル。
5・18	母校4階体育館にて開校150周年記念事業協賛会発足式に出席。
5・20	母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席。
5・21	母校4階体育館およびオンライン（ZOOM）にて校友会総会準備作業。
5・22	母校4階体育館およびオンライン（ZOOM）にて校友会総会を開催。
6・2	浜町コミュニティールームにて運営委員会。
6・25	浜町コミュニティールームにて年度幹事との合同会議。校友会総会の反省と次回総会に向けた申し送り事項作成。
6・27	母校2階家庭科室にて周年準備委員会に出席

令和3年度会計報告

収支報告書

2021（令和3）年7月1日～2022（令和4）年6月30日

収入の部		支出の部	
前期繰越金	879,725		
《会誌関係》		《会誌関係》	
広告	1,000,000	本誌（発行6,250部）	649,000
基金	296,000	発送費	451,293
		本誌作成費	6,764
《総会関係》		《総会関係》	
年会費・基金・ 祝儀（総会当日分）	35,000	総会運営費	84,469
		瓦せんべい代	74,040
		当日保険	12,340
		記念品費	71,500
《運営関係》		《運営関係》	
入会費	85,600	卒業記念品費用	88,275
年会費	202,000	出席交通費	78,325
受取利息	12	振込手数料	31,170
		通信費	19,563
		ホームページ運用費	44,000
		事務費	3,313
		常任委員会費	13,191
		税金	1
《周年行事》		《周年行事》	
基金	458,890	発送費	2,520
		積立	456,370
		次期繰越金	871,093
	2,957,227		2,957,227

周年行事基金積立金 残高報告書

前期積立繰越金残高	1,421,089
当期積立繰入金	456,370
	1,877,459

資産報告

預貯金	2,746,551	次期繰越金	871,093
ナナコ	758	周年行事基金積立金	1,877,459
現金	1,243		
	2,748,552		2,748,552

上記の通り報告いたします。

会計 橋詰阜佐枝(昭34)
監査 廣田 隆之(昭57)

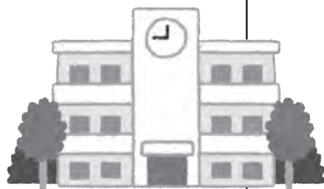
校友会当日、角田元良先生より御祝儀をいただきました。

令和3年度基金寄付者ご芳名録

2021（令和3）年7月1日～2022（令和4）年6月30日（順不同 敬称略）

北村 忠司	2,000	(旧職員)	
川田 克子 (村手)	5,000	森 富子	2,000
鈴木 茂男	4,000	(昭和11年)	
稲崎 祥二	5,000	(故) 山本 富美子 (福田)	5,000
山越 安代 (岩田)	1,000	(昭和13年)	
(昭和32年)		坂 園子 (畑)	1,000
市川 隆通	1,000	(昭和14年)	
小路 明	1,000	太田 善朗	1,000
郷 金二郎	5,000	(昭和17年)	
清水 恭一	6,000	竹内 定子 (戸田)	3,000
(昭和33年)		(昭和18年)	
小田切 勝昭	1,000	(故) 小林 義治	50,000
湯浅 眞津江 (高木)	3,000	瀬川 幸雄	5,000
辻 尚平	2,000	(昭和21年)	
湯浅 晴江	1,000	掛川 宣雄	1,000
平井 善夫	1,000	山田 良三	1,000
(昭和34年)		福田 錦二	5,000
樋山 憲治	1,000	村松 多喜夫	1,000
石井 丈吉	1,000	(昭和22年)	
尾澤 道夫	1,000	江波戸 敏匡	1,000
渡辺 誠	1,000	(昭和23年)	
黒澤 陽子 (小池)	2,000	小林 愛子 (武田)	1,000
橋詰 阜佐枝	5,000	(昭和24年)	
関根 喜一郎	2,000	山田 春江 (吉田)	1,000
(昭和35年)		(昭和26年)	
高木 為嗣	4,000	竹内 輝雄	1,000
田邊 明	1,000	奈良林 康次	2,000
槇島 邦子 (岩田)	2,000	(昭和28年)	
奥田 忠道	1,000	松原 亨	5,000
(昭和36年)		天羽 弘子 (館)	2,000
山口 洋子 (石村)	1,000	五島 秀幸	2,000
小倉 和男	5,000	(昭和29年)	
井上 泰子 (吉村)	2,000	阿部 雅博	2,000
土屋 つや子	1,000	岩岡 隆	1,000
松木 教子 (田中)	1,000	鈴木 貞臣	1,000
東 章二 (樋山)	1,000	(昭和30年)	
中島 務	1,000	大塚 愼二 (遠藤)	2,000
青木 和子 (高山)	1,000	齊藤 和臣	1,000
内田 君子 (笠井)	1,000	小黒 通顕	1,000
赤坂 雅恵 (長田)	1,000	(昭和31年)	
(昭和37年)		田島 正雄	1,000
匿名	1,000	織田 有子	2,000

花澤 祐輔 (船戸川) (昭和50年)	4,000	佐々木 美知子 (飯田)	1,000
広田 秀之	1,000	河野 晴行	1,000
中島 徹 (昭和51年)	1,000	関 眞弓 (目黒)	1,000
三部 健	10,000	坂田 佳代子	1,000
渡辺 正博	4,000	後藤 保 (住谷)	1,000
(昭和52年)		田中 豊	2,000
岡野 栄一	2,000	山崎 達衛	1,000
阪田 達朗	1,000	吉村 博	1,000
(昭和53年)		山田 ふじ子 (江口)	1,000
川口 修一郎	4,000	柳田 博光	1,000
小久保 明美 (鶴澤)	2,000	中谷 久子 (笠井)	3,000
佐々木 孝全	5,000	(昭和38年)	
(昭和54年)		齋藤 三保 (鈴木)	2,000
原 春夫	1,000	蓮沼 正子 (楠窪)	1,000
(昭和56年)		鈴木 裕基子	1,000
橋爪 愛 (佐々木)		(昭和39年)	
齊藤 淳子 (小長谷)	1,000	矢島 壮太郎	2,000
(昭和57年)		(昭和40年)	
広田 隆之	2,000	金地 芳隆	1,000
(昭和59年)		(昭和41年)	
中川 康二郎	1,000	中島 睦喜	5,000
(昭和62年)		鈴木 良一	1,000
藏田 幸三	1,000	遠藤 眞喜子	1,000
曾我 竜也	1,000	前田 賀子	1,000
(平成24年)		(昭和43年)	
増田 聖夕	1,000	小柴 基男	1,000
(平成27年)		岡田 一美	1,000
高尾 凜穂	1,000	山田 寿和	3,000
(平成28年)		小川 健二	1,000
伊藤 朔之助	1,000	中村 昌枝	10,000
(平成29年)		島影 恵子 (長谷川)	2,000
深谷 恭子	2,000	(昭和44年)	
(令和2年)		石川 陽一	5,000
石崎 純	1,000	(昭和45年)	
田口 大遥	1,000	井上 武 (5名分)	5,000
		井上 武	10,000
		(昭和46年)	
		増田 博生	1,000
		矢部 徹也	4,000
		(昭和47年)	
		齊藤 知也	10,000
		(昭和48年)	
		矢城 伸子 (川井)	1,000
		矢成 伸子 (川井)	1,000



令和3年度150周年基金寄付者ご芳名録

2021（令和3）年7月1日～2022（令和4）年6月30日（順不同 敬称略）

山越 安代（岩田） （昭和32年）	1,000	（旧職員） 森 富子	5,000
市川 隆通	1,000	（昭和13年）	
大西 基夫彦	3,000	坂 園子（畑）	1,000
小路 明 （昭和33年）	1,000	（昭和14年）	
小田切 勝昭	1,000	太田 善朗	1,000
湯浅 眞津江（高木）	10,000	奥田 英雄	10,000
湯浅 晴江	1,000	（昭和15年）	
平井 善夫	1,000	飯村 美佐子	1,000
坂井 正人 （昭和34年）	20,000	（昭和17年）	
樋山 憲治	1,000	竹内 定子（戸田）	3,000
石井 丈吉	1,000	（昭和18年）	
尾澤 道夫	1,000	（故）小林 義治	50,000
渡辺 誠	1,000	（昭和21年）	
黒澤 陽子（小池）	30,000	掛川 宣雄	1,000
関根 喜一郎 （昭和35年）	2,000	山田 良三	1,000
田邊 明	1,000	（昭和22年）	
槇島 邦子（岩田）	2,000	江波戸 敏匡	1,000
奥田 忠道	1,000	（昭和23年）	
小山 哲司 （昭和36年）	9,890	小林 愛子（武田）	1,000
小倉 和男	10,000	（昭和26年）	
井上 泰子（吉村）	2,000	竹内 輝雄	1,000
土屋 つや子	1,000	奈良林 康次	2,000
松木 教子（田中）	1,000	（昭和28年）	
中島 務	1,000	松原 亨	5,000
青木 和子（高山）	3,000	天羽 弘子（館）	2,000
内田 君子（笠井）	1,000	（故）佐藤 英明	3,000
赤坂 雅恵（長田） （昭和37年）	1,000	菊島 紀美子	3,000
佐々木 美知子（飯田）	3,000	五島 秀幸	2,000
河野 晴行	1,000	（昭和29年）	
関 眞弓（目黒）	1,000	阿部 雅博	2,000
坂田 佳代子	1,000	鈴木 貞臣	1,000
後藤 保（住谷）	1,000	石川 みさ子	1,000
大塚 富子	2,000	（昭和30年）	
田中 豊	2,000	大塚 慎二（遠藤）	3,000
山崎 達衛	1,000	齊藤 和臣	1,000
吉村 博	1,000	石島 正勝	2,000
		（昭和31年）	
		田島 正雄	1,000
		矢口 弘夫（茄子倉）	10,000
		北村 忠司	2,000
		鈴木 茂男	5,000

川口 修一郎	5,000	柳田 博光	1,000
小久保 明美 (鶴澤)	2,000	(昭和38年)	
佐々木 孝全	4,000	谷治 恵美子 (松本)	1,000
(昭和54年)		齋藤 三保 (鈴木)	2,000
原 春夫	1,000	蓮沼 正子 (楠窪)	1,000
(昭和56年)		鈴木 裕基子	3,000
齊藤 淳子 (小長谷)	10,000	(昭和39年)	
(昭和57年)		矢島 壯太郎	2,000
広田 隆之	3,000	(昭和40年)	
(昭和59年)		金地 芳隆	1,000
中川 康二郎	1,000	(昭和41年)	
神保 貴	10,000	遠藤 眞喜子	1,000
(昭和62年)		前田 賀子	1,000
藏田 幸三	1,000	中島 睦喜	10,000
曾我 竜也	10,000	(昭和43年)	
(平成7年)		小柴 基男	1,000
谷 英明	5,000	岡田 一美	1,000
(平成20年)		山田 寿和	10,000
藤澤 大志	1,000	小川 健二	1,000
(平成24年)		中村 昌枝	10,000
増田 聖夕	10,000	島影 恵子 (長谷川)	2,000
(平成27年)		小柴 基男	1,000
高尾 凜穂	1,000	(昭和45年)	
(平成28年)		井上 武 (5名分)	10,000
伊藤 朔之助	1,000	井上 武	10,000
齊藤 雅	1,000	(昭和46年)	
(平成29年)		増田 博生	10,000
深谷 恭子	2,000	矢部 徹也	5,000
(平成31年)		(昭和47年)	
齊藤 史晏	1,000	齊藤 知也	10,000
(令和2年)		匿名	30,000
石崎 純	1,000	(昭和48年)	
田口 大遙	1,000	矢城 伸子 (川井)	1,000
		矢成 伸子 (川井)	1,000
		花澤 祐輔 (船戸川)	10,000
		(昭和50年)	
		広田 秀之	2,000
		栗田 和明	1,000
		中島 徹	1,000
		(昭和52年)	
		田村 晃浩	1,000
		岡野 栄一	2,000
		阪田 達朗	1,000
		(昭和53年)	

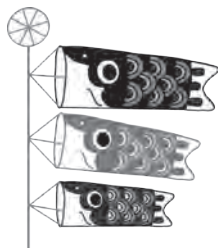


令和3年度会費納入者ご芳名録

2021（令和3）年7月1日～2022（令和4）年6月30日（順不同 敬称略）

湯浅 晴江	渡辺 俊夫	（旧職員）
平井 善夫	（昭和28年）	平野 小夜子
（昭和34年）	染谷 政孝	松岡 秀子
山崎 文三	松原 亨	森 富子
樋山 憲治	佐藤 公一	（昭和13年）
石井 文吉	天羽 弘子（館）	坂 園子（畑）
尾澤 道夫	菊島 紀美子	（昭和14年）
渡辺 誠（3年分）	五島 秀幸	太田 善朗
山崎 文三	（昭和29年）	（昭和15年）
黒澤 陽子（小池）	阿部 雅博（2年分）	丹羽 雄之介
橋詰 卓佐枝	岩岡 隆	（昭和17年）
関根 喜一郎	鈴木 貞臣	竹内 定子（戸田）
（昭和35年）	石川 みさ子	（昭和18年）
高木 為嗣	（昭和30年）	瀬川 幸雄
田邊 明	大塚 愼二（遠藤）	（昭和19年）
榎島 邦子（岩田）	齊藤 和臣	杉山 紀子（川口）
奥田 忠道	小黒 通顕	杉山 紀子（川口）
（昭和36年）	石島 正勝	（昭和20年）
山口 洋子（石村）	山鹿 輝夫	池本 智美子（5年分）
小倉 和男	（昭和31年）	（昭和21年）
井上 泰子（吉村）	神尾 公子	掛川 宣雄
土屋 つや子	田島 正雄	中村 作二
松木 教子（田中）	織田 有子	三井 正昭
東 章二（樋山）	北村 忠司	山田 良三
中島 務	川田 克子（村手）	中村 作二
青木 和子（高山）	鈴木 茂男	福田 錦二
赤坂 雅恵（長田）	谷口 全男	村松 多喜夫
（昭和37年）	稲崎 祥二	遠藤 光子（牧野）
小倉 裕子	山越 安代（岩田）	（昭和22年）
匿名	（昭和32年）	江波戸 敏匡
中村 正信	市川 隆通	（昭和23年）
佐々木 美知子（飯田）	小路 明	小林 愛子（武田）
河野 晴行	郷 金二郎	（昭和24年）
関 眞弓（目黒）	清水 恭一	寺島 郁雄
坂田 佳代子	（昭和33年）	山田 春江（吉田）
後藤 保（住谷）	小田切 勝昭	（昭和26年）
大塚 富子	湯浅 眞津江（高木）（3	竹内 輝雄
小倉 裕子	年分）	奈良林 康次
田中 豊	辻 尚平	（昭和27年）

藏田 幸三
曾我 竜也
上田 絵里子 (中川)
(昭和63年)
齊藤 忍
(平成7年)
谷 英明
(平成20年)
藤澤 大志
(平成24年)
増田 聖夕
(平成27年)
高尾 凜穂
(平成28年)
伊藤 朔之助
齊藤 雅
(平成29年)
深谷 恭子
(平成31年)
齊藤 史晏
(令和2年)
石崎 純
田口 大遥
(令和4年)
高尾 甚太
(卒年不明)
匿名
匿名



増田 博生
矢部 徹也
(昭和47年)
谷田 賢二
鈴木 正雄
井口 実
後藤 幸司
(昭和48年)
矢城 伸子 (川井)
矢成 伸子 (川井)
花澤 祐輔 (船戸川)
(昭和50年)
広田 秀之
栗田 和明
山田 千栄子 (浅山)
中島 徹
(昭和51年)
三部 健
渡辺 正博
(昭和52年)
田村 晃浩
岡野 栄一
阪田 達朗
(昭和53年)
川口 修一郎
小久保 明美 (鵜澤)
佐々木 孝全
林 克洋
(昭和54年)
原 春夫
(昭和56年)
橋爪 愛 (佐々木)
齊藤 淳子 (小長谷)
(昭和57年)
広田 隆之
(昭和58年)
小長谷 充
(昭和59年)
中川 康二郎
神保 貴 (10年分)
(昭和62年)

山崎 達衛
吉村 博
山田 ふじ子 (江口)
柳田 博光
中谷 久子 (笠井)
中谷 久子 (笠井)
説田 好伸
(昭和38年)
大塚 京子 (河合)
齋藤 三保 (鈴木)
蓮沼 正子 (楠窪)
鈴木 裕基子
(昭和39年)
山崎 行治
山崎 行治
矢島 壮太郎
(昭和40年)
金地 芳隆
(昭和41年)
中島 睦喜
鈴木 良一
遠藤 眞喜子
前田 賀子
(昭和42年)
山崎 心五
山崎 心五
(昭和43年)
小柴 基男
岡田 一美
山田 寿和
小川 健二
中村 昌枝 (10年分)
島影 恵子 (長谷川)
小柴 基男
(昭和45年)
井上 武 (5名分)
井上 武
(昭和46年)
松原 淳子 (山崎)
大野 由貴子
宇田川 有智子 (倉田)

令和4年度会費納入者ご芳名録

2022/7/1～2023/2/28の期間に年会費、基金、150年基金を頂戴した方のお名前です。改めて、次号47号で金額とともにご紹介いたします。

<p>田村 遼一 (平成29年) 田村 正臣 (平成31年) 篠塚 太希</p> <p>■150周年基金寄付者 (昭和18年) 秋庭 信夫 (昭和21年) 山田 良三 (昭和24年) 山田 春江(吉田) (昭和25年) (故)篠原 晶子(石田) (昭和29年) 大塚 照男 (昭和31年) 小島 照子(渡辺) (昭和32年) 西明 帝子(内藤) (昭和35年) 松波 かほる (昭和41年) 窪田 明 中島 豊六 (昭和57年) 関司 薫 (昭和61年) 岩田享也 (平成27年) 田村 遼一 (平成29年) 田村 正臣 (平成31年) 篠塚 太希</p>	<p>矢野 碧人 浦辺 隆佑 田村 正臣 (平成31年) 篠塚 太希 (令和2年) 浦辺 香帆 田口 大遥</p> <p>■基金寄付者 (昭和18年) 秋庭 信夫 (昭和21年) 山田 良三 福田 錦二 (昭和24年) 山田 春江(吉田) (昭和25年) (故)篠原 晶子(石田) (昭和29年) 大塚 照男 (昭和31年) 小島 照子(渡辺) (昭和32年) 西明 帝子(内藤) (昭和33年) 野口 栄一 (昭和35年) 松波 かほる (昭和51年) 三部 健 (昭和57年) 関司 薫 (昭和61年) 岩田享也 (昭和62年) 松本 克己 (平成元年) 森 量裕 (平成27年)</p>	<p>■年会費納入者 (昭和18年) 秋庭 信夫 (昭和21年) 山田 良三 福田 錦二 (昭和24年) 山田 春江(吉田) (昭和25年) (故)篠原 晶子(石田) (昭和27年) 渡辺 俊夫 (昭和29年) 大塚 照男 (昭和30年) 萩小田 幸子(五島) (昭和31年) 小島 照子(渡辺) (昭和32年) 西明 帝子(内藤) (昭和33年) 野口 栄一 (昭和35年) 松波 かほる (昭和37年) 説田 好伸 (昭和41年) 窪田 明 中島 豊六 (昭和47年) 盛田 繁子(3年分) (昭和51年) 三部 健 (昭和62年) 松本 克己 (平成元年) 森 量裕 (平成27年) 田村 遼一 (平成29年)</p>
--	--	--



らんどせる

年会費・校友会基金にご協力を

今年もまた別表の通り、多くの方々から、貴重なご芳志をお寄せいただきました。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

金額は一口1,000円で口数は任意です。また、年会費は1名分1,000円となっております。

【郵便振替】 払い込み手数料は無料ですが、現金支払いの場合は1件110円の払込人負担が加算されますので負担下さい。通帳・キャッシュカード利用の場合は加算対象外です。

口座名 久松小学校校友会
口座番号

東京00190 7 189503

尚、払込用紙には卒業年組をお書き下さい。送付封筒のお名前の後に記載があります。

【銀行振込】 振込手数料はご負担ください。

みずほ銀行横山町支店
普通1482776

口座名 久松小学校校友会
銀行振り込みの場合、送付封筒に記載してある卒業年度をお名前の前にご記入ください。卒業年不明の場合は、生年月日をご記入ください。

【手渡し】 手渡しでも受け付けます。お近くの校友会運営委員にお渡しください。

基金、150周年行事基金に合計1万円以上のご寄付をいただいた方に、お礼の品(校友会特製ノート)を送らせて頂きます。



ホームカミングデーのお知らせ ご卒業50周年の皆様へ

いくつになっても母校は良いもの。まして懐かしい恩師・旧友に再会できるならなおさらです。校友会で、こころゆくまでご歓談ください。

今年「二十歳のつどい」を 迎えられた皆様へ

校友会へご招待いたします。お友達同士声を掛け合いご出席下さい。



令和6年校友会のお知らせ

令和6年の校友会は5月26日(日)の予定です。年度幹事は昭和59年、平成6年、平成16年、平成26年卒の方々です。校友会を盛り上げる為に、ぜひお力をお貸し下さい。

ホームカミング(昭和49年卒の皆様)および二十歳のつどいを迎えられた方(平成28年卒の皆様)は2024年(令和6年)の校友会にご招待申し上げます。コロナ禍により校友会でお会いできなかった皆さん、ふるってご参加ください。

毎年総会には、校長、副校長、PTA運営委員、近隣町内会、久松子ども応援会(パパ会)、青少年対策地区委員会の皆様からご後援をいただいております。

原稿募集

クラス会や同期会の原稿を募集します。次号第47号の締切は2024年1月末日です。

1. 文字原稿のみの場合は、本文が1100字以内で、写真を1枚併載する場合は、800字以内でお願いします。
2. 原稿冒頭に会の名称、卒業年、組、執筆者名を明記願います。
3. パソコンで作成された原稿の場合は、CD等の添付をお願いします。メールでのデータ添付も可能です。詳しくは下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

広告募集

あなたのお店や会社の広告を載せてみませんか？

多くの卒業生に読まれている「校友会だより」に、クラス会や同期会、同窓会、野球の勧誘、サークルのお誘いなどを掲載しませんか。広告料は下記の通りです。「校友会だより」の発刊を大きく支えている広告に、ぜひご協力ください。来年4月発行の本誌第47号に、広告掲載をご希望の方は、校友会メールアドレスまでご連絡下さい。

サイズ	料金	サイズ	料金
1P	120,000	1/2P	60,000
1/4P	30,000	1/8P	10,000
1/16P	5,000		

住所が変わられた方へ

住所を変更された方は、下記お問い合わせ先へお届け下さい。「校友会だより」が配達できません。また本誌がご不要の方もご連絡下さい。いずれもご住所、お名前（旧姓）、ご卒業年又は生年月日、組、卒業時の恩師名をお伝え下さい。

なお、住所に関する連絡はホームページでも受け付けています。QRコードをご活用下さい。

お問い合わせ先

校友会本部は、母校内に設けられておりますが、役員は常駐しておりません。文書は従来通り学校宛に郵送いただいで結構ですが、現金書留はお受けできません。

中央区立久松小学校内 校友会事務局
〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2
TEL 03-3661-6016 (代)
FAX 03-3668-2365

Email : hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ :

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ

個人情報の取り扱いについて

中央区立久松小学校校友会

当会は個人情報の利用に関し、以下に掲げる事項を遵守します。

- ①個人情報の保護に関する法律に基づき、会員の個人情報等を以下の目的にのみ使用します。
校友会名簿管理・校友会だより送付・校友会運営・クラス会準備に必要な連絡。
- ②会員の公表されていない情報を、適切な運営の確保やその他必要と認められる目的以外に使用しません。

校友会のホームページについて

ホームページでは、校友会総会のご案内、校友会だよりに関する情報、校友会の活動、運営委員会等の開催案内について発信しています。

また、校友会だよりは第44号からホームページでオンラインでの配布を行っています。

さらに、皆様方からの住所変更、住所連絡、校友会だより配送停止、校友会だより配送再開などの連絡を受け付けています。

一度、校友会のホームページにもお越しく下さい。ホームページには以下のQRコードをご使用ください。

校友会ホームページ：<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ



住所変更・連絡
配送停止・再開など



校友会総会のご案内

同期会のお知らせ

校友会に連絡が届いた同期会の情報です。幹事様と連絡が取れない場合は校友会までご連絡ください。幹事様に転送します。

S21年卒：校友会当日に同期会を行う予定です。総会には6名の参加予定です。“敬老会の日の後、十月位に開催したいと思います。” S21年卒福田錦二様 (P.11) の文章を参照ください。

S48年卒：校友会当日に同期会を行う予定です。

校友会総会ボランティア募集

校友会総会の前日の会場設営、および当日の受付、会場案内、会場準備・撤収のボランティアを募集します。ボランティアを引き受けていただけの方はお近くの運営委員まで連絡頂くか、校友会へのメール連絡、ホームページからのメッセージ連絡をお願いします。当日の飛び入りも歓迎です。前日、当日の集合時間などはホームページに掲載します。

訃報

飯泉光男元校長先生

第15代校長先生 昭和59年4月1日～昭和63年3月31日に学校長を勤められました。

経費削減のため同一住所には1冊のみ発送させていただきました。従来通り複数冊の送付をご希望の場合は、校友会までご連絡ください。

〈表紙題字〉 故 大石隆子先生

〈表紙写真〉 中央区立久松小学校150周年・久松幼稚園80周年記念碑

校友会だより第46号 定価500円（税送料込）

2023（令和5）年4月1日発行

編集・発行 中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

<p>洋装雑貨卸 (株)細谷商店 横山町8-7 細谷 昌宏(昭36)</p>	<p>竹内 輝雄(昭26) 喜美子(昭30) 素子(昭43) 日本橋大伝馬町12-8 TEL(3661)2380</p>
<p>コンピュータから事務用品まで 株式会社 リーチ 横山町10-5 TEL 3664-5351 中村 雅昭(昭36) 中村 祐司(昭40) 中村(宮田) 順子(昭43)</p>	<p>(有)川名薬局 東日本橋3-7-3 ☎ 3661-9146 川名 信一(昭27) あかり(平27) 純一(昭58) 海 喜(平30) 佐智子(昭61)</p>
<p> FUKUMOTO 株式会社 フクモト TOKYO 本社 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-1-4 TEL 03-3663-8541(代) FAX 03-3661-0360 福本 義朗(S37)</p>	<p>タオル・フロシキ・手拭他卸 (株)戸田商店 東日本橋3-8-5 ☎ 3661-9111 代表取締役 戸田 昌男(昭28)</p>
<p>日本橋の紙鍋 「紙やきホルモサ」 本町1-10-2 江戸橋北 平成4年卒 坂田誠一郎</p>	<p>カメラ堂 東日本橋2-16-9 ☎ 3861-2566(代) 後藤 公夫(昭29)</p>
<p>本場大島袖・結城袖・高級呉服卸 株式会社 丸大商店 太田 雅久(昭37卒) 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目3番13号 電話：03-3851-6384 FAX：03-3851-6385</p>	<p>焼鳥 よし田 吉田 実(昭31) 雄一(昭60) 豊(昭62)</p>
<p>創業明治17年 酒類卸・酒販店・カクウチ 株式会社岡永  日本名門酒会 / 岡本屋永吉商店 〒103-8380 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-3 https://www.meimonshu.jp/</p>	<p>酒類販売 (株)勢州屋本店 富沢町10-15 03-3662-3721 岡田 玲子(昭32) 岡田 舞佳(平22) 横山ちさ子(昭56) 悠佳(平24) 岡田 昇也(昭58) 横山 里佳(平23) 梨乃(平23)</p>
<p> 中央区日本橋馬喰町1-4-11 有限会社古今 Tel 5642-7575 近藤栄美子(松島)(昭40卒) 江川安喜子(松島)(昭45卒) 江川 史朗 (平14卒) 江川 輝 (平17卒)</p>	<p>花槇生花店 東日本橋2-3-2 TEL 3851-8761 植野 光弘(昭34) 中原 恵未(平4) 植野 良一(平6)</p>
<p>小沢株式会社 東日本橋3-4-7 3662-0475 上野 一美(昭41) 小澤 正彦(昭43) 吉田 文恵(昭46)</p>	<p>タオル・手拭い各種名入れ 有限会社 平松 東日本橋1-3-6 TEL 03-3851-5091 矢川 春文(昭54) 美香(平18) 香織(平27)</p>

 <p>MARCHENART ×川ハブアート株式会社 www.marchen-art.co.jp 藤澤とみ子(昭50) 川端 康裕(昭51) 河合 啓江(昭54) 川端 昭宣(昭57) 〒130-0015 東京都墨田区横網2-10-9 TEL. 03-3623-3760 FAX. 03-3623-3766</p>	<p>野球ユニフォーム・Tシャツ・ウインドブレーカー (株)タキ 中央区東日本橋1-1-19-4F TEL 03-3851-7714 代表 瀧 賢治(昭47卒)</p>
<p>(株)三協堂 〒103-0007 日本橋浜町1-6-1 TEL 3866-1554(代表) FAX 3861-5726</p>	<p>(有)三栄電機 馬喰町1-5-16 ☎3661-1671 山本 功(S43) 井上 京子(S51) 幸夫(S53)</p>
<p>初音森神社 東日本橋2-27-9 TEL 3863-1308 田部 裕子(昭48) 景子(平14)</p>	<p>EST. 1930 小宮商店 KOMIYA SHOTEN 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-9-7 TEL 03-3661-9064 小宮 武 小宮 隆明</p>
<p>ダイヒロバッグ株式会社 横山町3-7 TEL 3664-8901(代) 代表取締役社長 村上 浩一郎</p>	<p> 久松小学校 校旗作成の実績  株式 三上旗店 三上 明夫(昭和43年卒) TEL:03-3663-8841 http://www.mikami-flag.co.jp</p>
<p> (有)大嶋屋本店 取締役社長 村山 均 〒103-0003 中央区日本橋横山町7-18 Tel:03-3663-7031 Fax:03-3663-7030</p>	<p>鳥井 龍吾(昭47卒) 大吾(平14卒) 田中 玲美(平17卒) 眞美(平22卒)</p>
<p> 株式会社 マスター カバン・ビジネスバッグ・スクールバッグ 他 増田 義雄 〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町3-6 TEL 03-3663-4561 FAX 03-3663-4570 URL http://www.master1.co.jp/ e-mail:info@master1.co.jp/</p>	<p>理・美容 谷口育子の店 中央区福祉サービス券 承ります 東日本橋2-16-4 3851-4520 谷口 育子 瀬戸口 順子(S47) 貴志(H12) 潔(H19) 湧見(H14) 毅(H20)</p>
<p> 株式会社 角石 中央区日本橋横山町2-1 tel:03-3661-9481 http://www.kakuishi.jp</p>	<p> まちいく キッズスクール 公式LINEはコチラ 東京都中央区東日本橋2-6-7</p>
<p>フレンチカフェ シェ・アンドレ ドゥ・サクレール 人形町1-8-5 TEL 03-6228-1053 益川 良雄 (昭和58)</p>	<p>(株)精華堂あられ総本舗 江東区清澄3-10-5 TEL 03-3641-9288 桑原 万代(昭53年卒) 清水 慶太(昭55年卒) 斉藤 夕子(昭57年卒) 桑原 拓也(平16年卒) 桑原 みらの(平20年卒) http://www.seikadoarare.co.jp</p>

呉服卸

(株)飯島商店

中央区東日本橋3-9-5

TEL 3661-3610

飯島 孝夫 (昭37)

飯島 邦雄 (昭43)



ファッション専科総合卸

株式会社 宮入

日本橋横山町6-18

TEL03-3663-5211

京呉服卸

株式会社 山 富

山鹿 輝夫 (昭30)

日本橋堀留町2-8-11

電話 3661-4097

踊・祭衣装

日本の歳時記 製造発売元

株式会社 佐藤 万

佐藤 寛 (昭30)

佐藤 實 (昭37)

久松町6-5

☎3664-3611

Eメールアドレス satoman@path.ne.jp

ホームページアドレス

http://www.nihon-no-saijiki.co.jp

株式会社

大森製パン

広田 道子 (大森・昭和21年)

秀之 (昭和51年)

隆之 (昭和57年)

呉服・白生地 ご相談ください。

(株)三優小長谷

sanyu.obase@gmail.com

東京手描友禅 淳工房：080-6682-2088

昭和56年卒 齊藤 淳子

有限会社 苗木旗店

中央区日本橋馬喰町2-5-12

TEL 03-3661-5380 FAX 03-3661-8640

E-mail: naeki-fs@onyx.dti.ne.jp

桂司 (昭和26年卒) 泰二 (昭和29年卒)

修司 (昭和56年卒) 達二 (昭和59年卒)

中央区東日本橋 2-10-4

とんかつ
生姜焼き
ラーメン

三好弥

電話 03-3866-3448

03-3863-3448

(有)福雅

横山町 4-5

TEL 03-3663-7211

代表取締役 福田 喜一 (昭44)



日本橋かわまた内科クリニック

内科・循環器内科・糖尿病内科

日本橋富沢町10-18 ☎03-3669-2626

川俣 博文

職場のユニホーム製造卸

株式会社 原利商店

横山町5-8奉仕会館2F ☎3661-6711

原 由美子 (昭30)

千依子 (昭58)

有加子 (昭63)

袋物卸

株式会社 正木屋

横山町 7-7
TEL 03-3661-6849

説田 好伸(昭和37卒)

わが久松に光あり

中谷 久子(昭37卒)
笠井 秀一(昭39卒)

OFFICE NET <https://www.hayashiya.com/>

株式会社 林屋

横山町1-4
Tel 03-3661-7402

林 慶造 (S37)
水野 一恵 (S62)
林 千恵 (H3)
林 千奈 (H30)

バレエ教室 スタジオパートワン

学園長
城野満佐子(昭35卒)
中央区日本橋大伝馬町17-3
☎03(3661)0425

株式会社 久松商事

外川 隆康
外川 光久

〒103-0005
東京都中央区日本橋久松町10番10号
(久松ビル)
TEL (03) 3661-3211(代)
<http://www.hisamatsu.co.jp>

携帯電話関連商品

株式会社 サンゴ

代表取締役 黒澤 関則
陽子
(旧姓 小池 昭34卒)

〒131-0043 東京都墨田区立花1-23-5-202-2
TEL 03-5247-4697

相続・遺言のご相談なら

相続まるごと支援センター
(税理士法人よしむら)

千葉県松戸市西馬橋5-1-5
TEL 0120-37-8344
吉村 博(昭37卒)

文化を創り、文化を築く。

L!FE

ライフ株式会社

〒121-0836 東京都足立区入谷6-2-6
東京文紙流通センターB棟
TEL: 03-3855-1261 FAX: 03-3857-6304
<http://life-st.jp/>



日本橋中央歯科

Nihonbashi Central Dental Clinic

各種	保険	治療
小	児	歯
矯正	歯	科
矯	正	科

受付はAIロボットが対面非接触で対応します。

〒103-0007

中央区日本橋浜町2-11-2

日本橋中央ビル2F



TEL **03-3664-8556**

物流業

食品・チルド・一般雑貨物流 倉庫業務

八大株式会社

日本橋人形町2-16-7

TEL 03-5534-2711

岩田 享也(昭61卒)

諸鳥鶏卵卸

資)大金鳥店

大橋 純子 (昭54)

鈴木 博子 (昭56)

(旧大橋)

大橋 晴代 (昭58)

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-5-6

TEL 03-3667-2441

FAX 03-3667-2400

(有)高虎商店

祭礼及び店用等半纏、てぬぐい、
のれん、袋物の製作販売

中央区日本橋浜町 2-45-6

高橋 堅 (昭54)

高橋 由布(昭56)

高橋 巧(昭58)



安田不動産



事務用品・OA用品・印刷

株式会社 **かめや**

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-23-7

TEL 03-3666-5221 FAX 03-3667-3140

E-mail info@kameya-st.co.jp

URL <http://www.kameya-st.co.jp>

代表取締役 **渡辺 政博** (昭和51卒)



総合卸

株式会社エトワール海渡

ETOILE

代表取締役社長

早川 謹之助

〒103-8370

東京都中央区日本橋馬喰町1-7-16

電話 03-3661-1111(代)

www.etoile.co.jp



包装資材総合卸

株式会社 **ニシムラ**

西村 吉隆 (昭51)

西村 仁美 (平13)

西村 優実 (平18)

西村 隆介 (平23)

墨田区立川 4-13-10

TEL 03-3635-3161

伊東旅館

ITORYOKAN

人形町2-31-3
TEL 03-3666-6675
杉山 寿英 (昭56年卒)

和仁輪仁

代表 川口 修一郎 (昭53)
川口 泰輝 (昭55)
川口 正峰 (昭63)
川口 祐ノ輔 (平19)
川口 祐徳 (平21)
川口 祐紀賀 (平24)

割烹

浜町 西むら

浜町2-33-4
TEL 03-3666-7366



西村典子 (S58卒)
西村昌宏 (S60卒)
西村英孝 (S62卒)
西村明子 (S62卒)



新川屋 佐々木酒店

甘酒横丁

日本橋人形町2-20-3
TEL:03-3666-7662
FAX:03-3668-2553
www.Sasas.jp

本は人生を豊かにし、雑貨は生活を豊かにする、
そして笑顔は心を豊かにする

アスカブックセラーズ

中央区東日本橋2-2-4-1階 東日本橋駅前

幼児・幼年雑誌、絵本、図鑑、
学習ドリル、ジャポニカ学習帳、
学童文具、キャラクター雑貨、
バスボール、食器など豊富な品
揃えです。



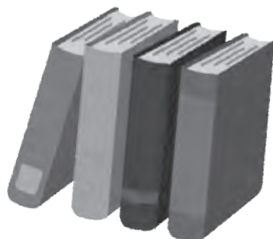
河邊健太郎 (昭和57年卒業・6年2組)
千葉 文 (河邊・昭和59年卒業)

焼鳥

おが和

人形町3-11-2
TEL 3661-8711

岩上 敬一 (昭38年卒)
佳夫 (平6年卒)



H HAYASHI
DELIVERY SERVICE

株式会社ハヤシ配送サービス

〒130-0021 東京都墨田区緑2-6-5
電話 03-3634-2941 FAX 03-3846-0544

林 秀行 (昭和48年卒)
E-mail : info@hayashi-hs.co.jp





家内安全・商売繁盛・交通安全・厄除他
御祈願随時受付けております。

笠間稻荷神社

中央区日本橋浜町二丁目十一番六
電話 〇三―三六六六―七四九八
FAX 〇三―三六六六―七四三八

江戸三大不動
大本山 川崎大師 東京別院
薬研堀不動院
厄除・商売繁昌・開運

TEL. 03-3866-6220

御府内八十八ヶ所第二十三番札所
関東三十六不動霊場第二十一番札所

シモジマ店舗へ 是非ご来店下さい!

包装用品・学童文具・事務用品を
各種取り揃えております

取扱い品目

包装紙・紙袋・化成品袋・ボックス
ギフトカード・シール・POP用品
店舗ディスプレイ用品・粘着テープ
紐類・文具・事務用品・OA用品他

東京(浅草橋)・名古屋・大阪(心斎橋)他
直営店舗がございます。
詳しくはHPをご参照下さい。

夢を包み、心をつなぐ。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-29-8
TEL 03-3864-0061 FAX 03-3865-4470
<https://www.shimajima.co.jp/>

(株) 富士商会

横山町4-15
TEL 3663-8391

岩田 博(昭32)

(株) トーヨー 東洋地産(株)

横山町6-13
☎3663-9141~4

西沢 俊司(昭31)
郷 (昭58)



—日本橋エリアの経営革新をサポート—

株式会社福水戸家

平成3年卒 代表取締役 磯部一郎

連絡先：info@fukumitoya.co.jp

2023年(令和5年)校友会について

2023年(令和5年)の校友会総会は、母校での開催とオンラインでの開催を併用いたします。母校やオンラインで皆様のお越しをお待ちします。



令和5年校友会

開催日時：2023年5月28日(日)13:00～14:30

開 場：12:30(母校、オンライン)

開催場所：久松小学校4F体育館及び

オンライン配信(ZOOM Webinar)

開催内容：①開会の言葉 ②会長挨拶 ③学校長挨拶 ④事業報告

⑤会計報告 ⑥監査報告 ⑦校歌斉唱

アトラクション：①開校150周年記念行事のビデオ鑑賞

②中央区立日本橋中学校吹奏楽部の演奏

オンライン総会の参加方法：

①予め、パソコン、タブレット、スマートフォン等に「ZOOM」アプリ(無料)をダウンロードください。

②当日、右上QRコードを読み込むか、アプリを開き、

ミーティングID:862 1764 7058

パスコード:508748を入力ください。

③入室時はお名前に“卒年+名字(例R02久松)”を入力ください。

問い合わせ先:hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会からのお願い：

1)母校で総会に出席される方はマスクの着用をお願いします。

2)会場に消毒用アルコールを準備します。ご活用ください。

3)飲食物の販売はございません。なお、飲み物を若干数ご用意いたします。ご理解とご協力をお願いします。

4)総会の前日と当日にボランティアを募集します。詳細はP.33を参照ください。前日、当日の集合時間などはホームページに掲載します。

同期会

11:00～17:00の間、体育館や各教室で同期会を行えます。教室の使用をご希望の際は、当日校友会運営委員にお尋ねください。

■同期会開催予定の学年：S21年卒、S48年卒

P.33の同期会情報を参照ください。

校友会総会ご招待券

ホームカミング：S48年卒 (S35.4.2～
S36.4.1生)

二十歳のつどい：H27年卒 (H14.4.2～
H15.4.1生)

新入会員：R3～5年卒 (H20.4.2～
H23.4.1生)

の皆様、ご多忙とは存じますが、友達同士でお声がけを行い、お集まりください。

◎受付にこの招待状をお持ちください。

校友会よりささやかな記念品を贈呈いたします。

校友会確認印



中央区立久松小学校校友会